

雑誌「蒙疆文学」（日本語版）目次（下）：自一九四二年六月至一九四四年八月

阿莉塔
下関市立大学非常勤講師

<https://doi.org/10.15017/8508>

出版情報：九大日文. 8, pp.105-107, 2006-10-01. 九州大学日本語文学会「九大日文」編集委員会
バージョン：
権利関係：



雑誌「蒙疆文学」

(日本語版)目次(下)

自一九四二年六月至一九四四年八月

阿莉塔

凡例

- 一、本資料紹介は、第一回(雑誌「蒙疆文学」(日本語版)解説及び目次(上))、「九大日文」05)及び第二回(雑誌「蒙疆文学」(日本語版)目次(中))、「九大日文」06)に引き続き、第三回として創刊号と第一巻第三号の目次を紹介するものである。
- 二、本資料紹介は、高橋新太郎文庫(ネット上の文庫)所蔵の創刊号及び神奈川近代文学館に所蔵する第一巻第三号の原本を元に作成した。
- 三、第一回から第三回までの調査範囲は、日本国内の図書館・文学館・資料館・一部の専門図書館・個人文庫・新刊書店・古書店や中国の国家図書館をはじめとした一部の図書館であった。筆者の現段階での調査では、「蒙疆文学」は合計三巻一九冊まで発行されたことが判明した。具体的には、第一巻は第一号から第六号までの六冊で、第二巻は第一号から第九号までの九冊で、第三巻は第一・二号(合併

号)から第五号までの四冊である。ただし、第三巻第三号は未見である。なお、今後、未見本と終刊号の所蔵について判明した次第紹介するつもりである。

四、旧字体はすべて新字体に改め、仮名遣いは旧仮名遣いのままとした。

五、奥付け発行年はすべて西暦とした。

六、作品名・著者名・頁数は、目次を基準とした。ただし、本文の表記と違う場合は、その都度紹介しておくこととした。

七、*は編者の注記を表す。

第一巻第一号 一九四二年六月一日発行

表紙(一)(*口絵なし)

表紙(二)

目次

蒙疆文学について(*評論)

詩

習作

(*本文では副題「新体詩の韻律による」と表示)

素描の立体図

振り上げた斧を打ちをろせ

—蒙疆文芸懇話会結成—

(*この作品名は目次に掲載されていないが、本文に拠る)

落日の祈禱

(*本文では副題「貝子廟所見」と表示)

緒方禾 一〇〇〜一一

長浜連 四〇〜八

浅地央 二二〜二三

南春夫 一二〜一三

南春夫 一四〜一五

浅地央 二二〜二三

世紀の戦ひは今始まつた 泉徹夫 二四〇二五

(*本文では副題「対米英宣戦布告を手にして」と表示)

オルドス(*短評) 九

杜甫の雨情(*詩評) 小池秋羊 一六〇二一

創作 縁ある衆生 石塚喜久三 二六〇四二

花ぐもり 赤塚欣二 四三〇五二

演劇部の発足に就て(*短文) 赤塚欣二 四二

表紙(三)(*「編集後記」署名赤塚、奥付)

表紙(四)(*広告)

第一巻第三号 一九四二年九月二二日発行

表紙(一)(*口絵なし)

表紙(二)(*「蒙疆文学」同人名簿)

ポスター

目次

蒙古政府成立三周年記念特輯

四色旗翻える日(*随筆) 浅地史 五〇七

蒙古政府三周年を迎へて(詩) 南春夫 八〇九

肇建の人々(*随筆) 長浜連(絵・高玉輝雄) 一〇〇一五

張家口三年(*随筆) 赤塚欣二 一六〇一九

蒙疆文学賞・民族歌謡入選決定

詩 哀しき歌 泉徹夫 二二〇二三

(*本文では副題「N君の死を悼みて」と表示) 菊池重雄 二四〇二五

国防色に寄す (*本文では著者「菊地重雄」と表示)

燃え散りし花を求めぬ 岡野青志 四四

清河の映像 後藤静穂 四八

土 松本まさゆき 四八

オルドス(*短評) 二〇〇二一

蒙疆文学賞・作品募集 二六〇二七

蒙疆美術協会小品展評(*評論) 四九

演劇部報(*短文) 新井完造 二四〇二五

俳句 木戸帰城子・金子蟹石 四八

(*作品名は目次にも本文にも未表示)

ソニツト通信(第一報)(*ルポルタージュ) 林正盛 三〇〇三二

移動する女学校(*ルポルタージュ) 山岡寛章 三三〇四五

短歌 (*本文では副題「蘇尼特右旗女子家政実験学校に就て」と表示)

驟雨 神林節 四六

榆若葉 山口智恵 四六

黄昏 高野たけし 四七

八月の記録 二二三

回覧板 二四

創作 五〇〇五七

うたかたの挿話 青木啓

幻影

浅井彰夫 五八〇六二

表紙(三) (*「編集後記」署名赤塚欣二、奥付)

表紙(三) (*広告)

附記

「蒙疆文学」同人の変遷

同人名簿について、「蒙疆文学」誌上において掲載されたのは二回しかないようである。ただ、途中で加入した同人について、「編輯後記」で紹介される場合がある。また、戦争末期になると、同人の入れ替えや減少が著しかったため、同人の正確な情報についての記述は、殆どされていない。

第一巻第二号現在では、次の二三人のメンバーが紹介されている。

石塚喜久三、泉徹夫、稲葉正夫、林正盛、菅見武夫、二位原経清、沼田英一、大平俊久、岡土筆、緒方禾、高市英夫、高瀬源一、長浜連、後藤静男(*同号本文では「後藤静雄」と表示)、青木啓、赤塚欣二、浅井彰夫、浅地央、菊地重夫、木沢瑜、南春夫、白波利典、鈴木知己。

一方、蒙疆文芸懇話会の幹事長を務めた小池秋羊は、戦後『蒙疆文学』そのころ(「思出の内蒙古 内蒙古回顧録」らくだ会本部、一九七五年一月)という回想において、創刊時の同人として次の二〇名を挙げている。

石塚喜久三、泉徹夫、稲葉正夫、菅見武夫、大平一夫、緒方禾、高市英夫、高瀬源一、高島喜久夫、青木啓、赤塚欣二、浅井彰夫、浅地央、菊地重夫、南春夫、鈴木知己、小池秋羊、沼田英一、高野たけし、丹沢望。

小池の回想には、前述した二三名の中に含まれていないメンバー「大平一夫、高島喜久夫、高野たけし、丹沢望、小池秋羊」の名が見られる。

また本誌は、創刊二ヶ月後の一九四二年八月、蒙疆短歌会を吸収しそれを蒙疆文芸懇話会短歌部と名付けていた。そのため、同人の人数が急増した。拡大後の同人名簿は九月号(第一巻第三号)に掲載され、左記四三名が紹介されている。

伊知原幸一(*巻号により伊知原甲一、伊知原孝一と書く場合もある)、石塚喜久三、泉徹夫、稲葉正夫、菅見武夫、林正盛、林田芳人、二位原経清、沼田英一、音尾秀夫、落合郁郎、大久保勲、大江新、大平俊久、岡土筆、岡野青志、緒方禾、神林節、横沢宏、高市英夫、高玉輝雄、高野たけし、高山和夫、高島喜久夫、中村洋子、長浜連、牛村義雄、山口智恵、八島甫、安武とどむ、小谷昌毅、後藤静穂、青木啓、赤塚欣二、浅井彰夫、浅地央、亜島花二(*巻号により亜島莊二と書く場合もある)、菊池重夫(*巻号により菊池重雄と書く場合もある)、南春夫、宮地信人、白波利典、平沢高美、鈴木知己。

(下関市立大学非常勤講師)